



九州体育・保健体育ネットワーク研究会

佐賀牛A5ラウンド with むつごろう R7.9.20(土)佐賀市立本庄小学校 (+Zoom)

研究会当日はあいにくの雷雨となりましたが、対面11名、オンライン13名の計24名の参加者が集まり、大盛り上がりの会となりました。散会時は晴れ間の見える天候に。大変充実した気持ちで夜の部へと向かいました。

1 今年度の発表内容

○実践発表1 発表者：有田町立有田中部小学校 教諭 山本 泰雅

「誰もが夢中で楽しむリズムダンスの授業を目指して」～3年生での表現運動領域の実践を通して～

○実践発表2 発表者：佐賀県教育委員会事務局保健体育課 指導主事 江口 健一

「主体的・対話的で深い学びを目指した鬼中式アクティブラーニング」～ワクワクこそ最強～

○実践発表3 発表者：佐賀県教育委員会事務局保健体育課 係長 兼武 巖

「仲間とともに自らスポーツライフを継続するための力を育てる指導の工夫」～テニスの授業における考察～



体育・保健体育に込める私たちの思いは「12年間の系統性と共生の視点」です。小・中・高の実践発表から、各校種の体育・保健体育の在り方を見つめ直しました。

小学校の報告では「児童の実態を大切に」した授業を行われていました。恥ずかしさや不安感を払拭させるための手立てや児童の分かったことや工夫したことの記述を集めた「学びの宝箱」の提示によって、児童が夢中になって表現運動に取り組む授業づくり実践されていました。

中学校の報告では、3年計画で生徒の「保健体育が好き」の割合を増やすための実践が紹介されました。ワクワクをキーワードとして学習の見通しをもたせる手立て、授業導入の工夫、ペア・グループワークの効果的な活用を大切にされていました。

高等学校の報告では、テニスの授業を通して、仲間と共に生徒が主体的に運動に取り組むことで、生涯にわたるスポーツライフを継続できる力の育成をねらいとされていました。運動の特性に触れさせるような多様なゲーム形式の導入や協動的な学びを促すような工夫により、運動への意欲の向上を図られていました。

2 グループワーク

昨年12月25日に文部科学大臣から中教審に諮問された顕在化している課題（①主体的に学びに向かうことのできていない子供の存在②現行学習指導要領の理念や趣旨は道半ば③デジタル学習基盤の効果的な活用について）を4つのグループに分かれて話し合いました。対面・オンラインが混ざってのグループ編成でしたので、校種や地域を超えて体育・保健体育の価値について議論することができました。

3 情報提供

中島先生からは、体育における授業づくりの際の意識を若手教師と熟練教師を比較し、熟練教師は子供の何を見ているのか、どんなきっかけから授業を考えるのかなどの研究の視点からお話いただきました。科学的なデータを根拠に若手教師と熟練教師の差を説明されたことで、教師の声かけの質やタイミングの重要性を改めて実感させられました。

高橋先生からも「強制体育から共生体育」へ、そして生徒指導としての体育ではなく、学習指導としての体育により、全ての子供が豊かなスポーツライフの実現へと貢献できるように視野を広くもつ重要性を話していただきました。（無茶ぶりへの対応、大変ありがとうございました！）

4 夜の情報交換会

私が一番楽しかったのは、この情報交換会。もちろんお酒付きです。ある場所では情報を共有し、またある場所では体育の授業について熱い語り合い、また他の場所ではお酒についてのトーク等、みなさんが楽しいひとときを過ごしていたのではないのでしょうか。こういうとき、人との「つながり」を考えます。この会を佐賀の先生にもっと広め、体育・保健体育の授業の充実を図りたいものです。

最後になりますが、御参加いただきました先生方、本当にありがとうございました。

（文責：江口健一）

来年も佐賀で
●●●
お待ちモウしあげます！

